

パラオ共和国におけるしろあり事情

株式会社 明誠 佐藤 つかさ

【パラオ共和国】

パラオ共和国は、岡山から真南に約3000kmの位置にある386の島々からなる国であるが、人が住んでいる島は9島のみであり、人口は2022年現在で約18000人とされています。

面積は488平方キロメートルで、これは屋久島とほぼ同じ面積です。

現地に在住している日本人は約260名ほどだそうです。

年間の平均気温は27℃、平均湿度は82%と、熱帯雨林気候特有の蒸し暑さが一年中続く場所です。

日本の真南に位置する場所であるため、時差はありません。

パラオ共和国には、世界遺産にも登録されているロックアイルランドが有名ですが、日本人が良く耳にするのは「ペリリュー島」ではないでしょうか？

1885年からスペイン帝国の植民地になり、1899年にはドイツ帝国に売り渡され、ドイツ帝国の植民地になりました。

パラオの人々は奴隷のように扱われ、インフラの整備や初等教育は行われず、パラオが築いた富は全てドイツ帝国に独占されていました。

第一次世界大戦が始まると、ドイツと戦った日本軍が勝ち、パラオを占領しました。

大日本帝国の植民地となったパラオは、約34000人のうち約25000人が日本人、先住民が約6500人、その他で2500人程度が住んでいました。(軍人を除く)

日本は、インフラの整備、病院や学校の建設が積極的に行われ、学校教育では日本語が教えられるようになりました。

その影響で今でもパラオ語には日本語と全く変わらない言語が1000語近く存在します。

オカネ(お金)、デンキ(電気)、アジダイジョウブ(美味しい)、ゴメン(ごめんなさい)、メンドクサイ(面倒くさい)、アイコデショ(じゃんけんぽん)、ツカレナオス(ビールを飲む)、チチバンド(ブラジャー)

第二次世界大戦が始まり、1944年に多くの戦死者を出した「ペリリュー島の戦い」が有名です。しかし、パラオ民間人の死者は皆無でした。



これは、日本軍がパラオ民間人を避難させて、日本軍のみで戦う選択をしたためです。

日本は負けて、アメリカの統治下に入ることになりましたが、過去の植民地時代との違いや、パラオ人を大事にしてくれたことから、日本に対する親日感情は今でも多くのパラオ人が持っている感情です。

パラオの国旗は日本とよく似ていて、水色地に黄色の丸です。

とても日本とよく似ていることから、日本に対するリスペクトが感じられますね。

そして、日本からの援助は、2021年で約2400万ドル、日本円にして約36億円にも上ります。



【きっかけ】

当協会でも何度か講師をしていただいている、「寺山 守」先生から、ある日連絡が入りました。「JICAのミバエの仕事でパラオに行ってきたのですが、パラオのしろあり被害がとんでもないことになっています！ 佐藤さん、パラオに行きませんか??」

正直「え？」ってなりましたが、困っている人がいるなら、国内であろうが、離島であろうが、海外であろうが、行かなきゃならんと思ってしまうのが「佐藤つかさ」です(笑)

元々、寺山先生はしろありの先生でもあり、しろありの被害を見て、放っておけないと思って私に連絡をしてきたのでしょう。

【準備】

寺山先生ご紹介の現地の日本人の方(大統領補佐官の奥様)シードさんと連絡を取り合い、とりあえずは現地調査をして、しろありの種類、被害状況、対策方法を検討することとしました。

沖縄からパラオに向かうには、沖縄→羽田・成田→グアム→パラオ、沖縄→台湾(1泊)→パラオの二択があったのですが、最もスマートな移動方法であると同時に、台湾での「ヒアリの調査」も行いたかったので、後者を選択しました。

ちなみに、台湾からパラオへの移動時間は、4時間弱です。

成田からですと、グアム経由となり、トランジットも含めて10時間程かかってしまいます。

航空券、ホテル、レンタカーの手配をし、しろあり採取用の道具ももちろん持参することにしました。

パラオに到着後、衝撃的だったのはイミグレーション(入国審査)のゲートが真っ暗で、今まで停電で、「これからパソコン立ち上げるからしばらく待っていて」と言われたこと。

20分ほど待たされて、ようやく入国することができました。

パラオでは停電が良くある事なのだそうです。



イミグレーションを通過後、シードさんと合流し、ホテルまで案内していただきました。

【現地調査と現状】

到着後は早速調査！と行きたいところでしたが、残念ながらホテルへの到着が17時を過ぎてしまったので、パラオの食の調査に変更いたしました！

パラオの通貨はアメリカドルですので、円安のこのご時世では、やはり高級な食事になってしまいます。

晩ご飯を食べに行くと、チップも含めて1人あたり約1万円は覚悟した方が良くかと思えます。

でも、現地で食べるご飯は、なんとも言えないリゾート感なのと、暑いせいかビールがめちゃくちゃ美味かったです！

満腹になったのでホテルで移動の疲れを癒やして、たっぷり睡眠を取らせてもらいました。



【現地調査の開始】

パラオに入って初めての朝は、赤道から近いいためか、とても蒸し暑い朝でした。

ホテル前には、今回の案内を引き受けてくれたシードさんが待っていてくれました。

シードさん車に同乗させてもらい、最初の現場に到着すると、そこはとても立派な教会でした。

教会内に入ると、教会によくある木製のベンチが多数並んでいるのですが、座る板の所々に砂の山があります。

そう、カンザイシロアリの糞です。

しかし、糞を見ただけでは、何のしろりか判断するのは不可能で、生体を確保し、同定をしなければなりません。

ところが、そんな時間的余裕もなく、さっそく某所で手に入れたムース剤を使って、糞を出している穴に次々とムース剤を注入しながら、駆除の方法をレクチャーしていきます。

まずは、糞の排出口の見つけ方、薬剤の注入の仕方、効果判定の仕方などを教えながら、せっせと施工をしていきます。

教会内の椅子だけではなく、壁やテーブル、扉など様々な場所に生息しているカンザイシロアリに絶望感すら覚えました。

この島にカンザイシロアリはどれだけいるのだろうか……。全く想像がつかず、正直興味よりも不安の方が大きくなっていました。



その後も、現地のホテルに伺いましたが、数百室あるほとんどの部屋にカンザイシロアリが生息しており、3日も放置すれば至る所に砂山ができてしまうくらい、とにかく大変な被害であることがわかりました。



現地にも2社ほどしろあり業者がいると聞きましたが、施工をしても全く効果がなく、島民の人たちは、対策を諦めている状態だと話していました。

カンザイシロアリの被害を食い止める方法を、なんとか見つけ出さなければならないのですが、思った以上に厳しい現実であることがわかってきました。

パラオは、自然豊かで、海もとてもきれいな場所なので、とても厳しい自然環境保護が行われており、やたらと薬剤を使用することもできません。

日本から薬剤を送るなんてできませんので、グアム経由でアメリカの基準に合致した薬剤を取り寄せなければなりません。

さらには、動力噴霧機を送るにしても、15万円のものを送るのに、30万円近い送料がかかり、軍事転用の商品ではないという証明をメーカーからもらわなければならない、準備だけでもとてもハードルの高いものとなります。

そんな場所なので、もちろん薬剤も厳しい基準で薬剤を選定しなければなりません。

とてもではないですが、「ちょっと行って駆除してやろう！」なんて思えない場所だということがよくわかりました。

何件か調査に伺いましたが、ちょっと変わった被害として、家屋に被害を与えないと言われているタカサゴシロアリの仲間が、家屋内に侵入し分巢を形成していました。

現場に到着して家屋被害を確認し、まさかと思い周辺を確認したら、すぐ近くの切り株にタカサ



ゴシロアリの仲間が営巣しており、女王の確認はできませんでしたが、卵を確認することができました。

これはとても貴重な体験でした。

そのほかにも、イエシロアリの仲間や、*Microcerotermes*の仲間も見ることができ、とても勉強になったパラオでの調査でした。

さて、これから一体どうやってこれらの駆除をやっていけばよいのか・・・。

海外でのしろあり駆除、しかも何種類もある異国で、薬剤の選定、道具の確保、とても高いハードルを越えなければなりません。

もし、よいお知恵があれば是非お借りしたいと思います。

今年の2月から3月にかけて、再度パラオに行く予定です。

なお、今回見つかったカンザイシロアリは、ニシインドカンザイシロアリであることがわかりました。

貴重な機会を与えてくださった寺山 守先生、また、しろありの同定で助けていただいた竹松 葉子先生に、この場をお借りして御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

さて、パラオはとても海のきれいな場所で、沖縄とも違うすばらしい自然と海が豊富にあります。

是非、みなさんも機会があれば一緒に行ってみませんか??

観光だけでもかまいません!

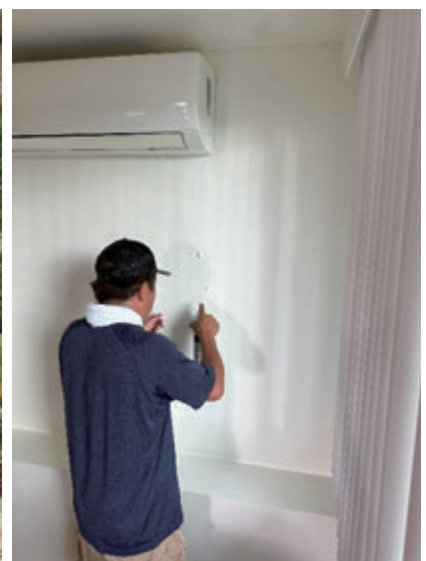
きっと良い思い出になると思いますよ。



Microcerotermes系の女王



タカサゴシロアリ系の巣



ホテルのムース剤処理の様子



パラオの海



高級泥パックも体験



パラオの国会前にて

【参考】

外務省ホームページ